

申請団体名	申請事業名	主たる事業の概要	講評	申請額(円)
高校生の企業研究会	高校生のじもと研究会	1高校生と地元企業の対話型イベント □ 2高校生のキャリア伴走サポート □ 3企業・学校の課題解決伴走サポート □ 社会人との対話から地域の産業や地域課題、自己実現の可能性についての知識や考えを深める。職業観や地域への新たな視点を獲得することで若者のキャリア形成につなげる。高校生、学校、企業との個別伴走サポートの仕組みをつくり、現在のキャリア教育で行き届きにくい分野・機能を補完しつつ、若者目線に立った質の高いサポートが継続する体制を構築する。	●評価できる点 ・これまでの取り組みを通じて、地元企業との連携関係を構築しながら、着実に参加者数を増やしてきた実績は評価できる。 ・すでに企業との連携があり基盤がある。実績もあるので連携を広げて零着させていってほしい。 ・高校生に光を当てるといのがおもしろい。 ●課題 ・参加者の地元定着数は、アウトカムとして必要ではないか。 ・組織基盤や急用度の高さに懸念がある。 ・高校生のキャリア教育は行政や民間企業が手を付けているところが多く、新味があまりない。組織基盤も脆弱に見える。	14,429,300
一般社団法人 リコネクト	地域から「ホンモノ」を発信する地域ブランド育成事業	当法人が運営するWebメディア「塩の道」の取材活動により、農業・林業・工芸品制作/販売・食品加工など、さまざまな地域産業の事業者を開拓し、事業や経営上の課題を把握する。その上で、当法人でプロジェクトを創出し(異業種のコラボレーションや、イベントの企画等)、事業者の課題解決に寄与する。また、安曇野・松本およびその近隣地域の地域ブランド育成の一環として有機農産物の流通量を増やす。減農薬に取り組んでいた有機農業に意欲のある農家から有機農産物を買取り、当法人のWebサイト上で販売するとともに、地域の飲食店や商店は勿論、首都圏への販路を開拓する。この活動を通じて、有機農産物をブランド化し、地域農業の活性化に寄与する。	●評価できる点 ・地元商品のPR拡大という発想はいい。 ・有機野菜のウェブ販売の推進派は重要である。 ●課題 ・地域産品が対象ではあるものの、商品販売のECサイト拡充であり本制度の趣旨に沿わない。 ・会社と社団法人の線引きにおいてガバナンス、コンプライアンスで問題がある。 ・既存のWEBサイトでの販売であれば実現可能性は高いものの先駆性は高くなく、また社会課題の解決に向けたアイデアや具体性が見えにくい ・県内在住スタッフが1人というのが気にかかる。都市部のスタッフが販路を形成する可能性があるかもしれないが未知数に映る。 ・社会的な価値と、有機農業の良さが見えてこない。	15,000,000
株式会社 ONE-LIFE	みんなで子育てしやすい場所づくり	<孤独な子育てしている人のコミュニケーションと支援>をするためにコミュニケーションの場、気兼ねなく集まれる場をつくる。地域の空いている畑、空いている民家を活用する。長野の土地に住み、生きている充実を一人一人がもて、自分の得意なことが生かせることで豊かな人生が創造ができる、送ることができるような環境を創りたいと思っている。コロナという事もあり生活様式が変わり、働き方が変わり、人との繋がりが持ちづらくなり、人々が悩みを持ったまま生活を送っている。今後どのように充実感を得ながら生活していくのか考える時期になっている。だが、何から始めたらいいのか、そんな方々が多いのではないかと。特に子育て中の親と子供(外国の方の子育て中の方も含め)、移住を考えている方と地域と繋ぎ、生活の場、働く場が出来れば地域活性化にも繋がる。	●評価できる点 ・事業の着眼点はよい、地域課題解決に資する。 ・介護事業と農地をうまく使い具体性を感じる。 ・介護事業を展開しており、体制、組織的にも安定している。 ・耕作放棄地、古民家の活用は具体性がある。 ●課題 ・事業化に際しては、栽培指導や加工品の製造、販路の確保など、さらに多様な事業者との連携関係を構築することが必要。 ・別法人にするなど会計を完全に株式会社と分離させて実施できないか。 ・役員が家族のみであり、外部チェックが効かない。ガバナンスとコンプライアンスの点で強い懸念。 ・大豆加工の厨房改修費用について懸念あり。精査が必要。 ・事業の詳細計画が課題。 ・現在の介護サービスの上に新たな事業を展開する実効性についてやや不安がある。	11,988,800